

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成28年9月2日(金)公表

トラック輸送情報

平成28年6月分

平成28年7月分は平成28年10月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 小野、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成28年6月分）

平成28年9月2日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：小野、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

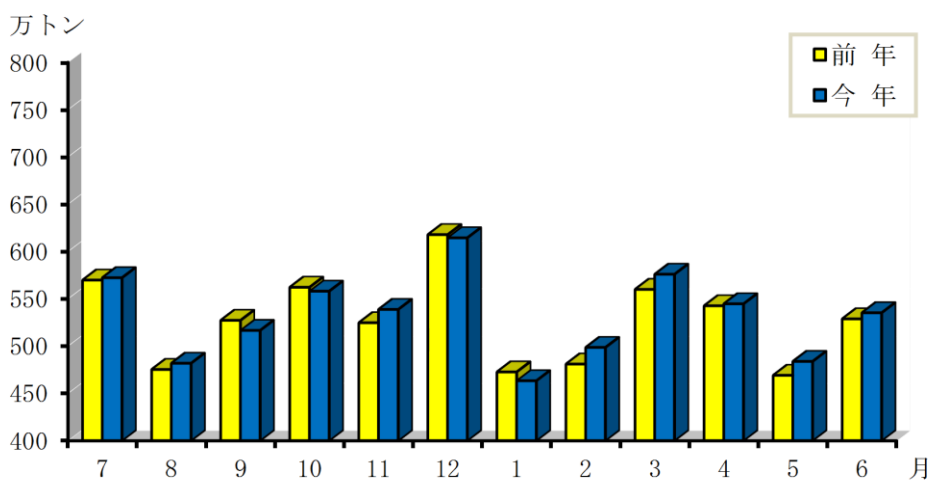
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,354,179トンで、前月と比べ総輸送量が約514千トン増加したため、前月比110.6%（季節調整済み101.5%）となり、前年同月との比較では、約64千トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

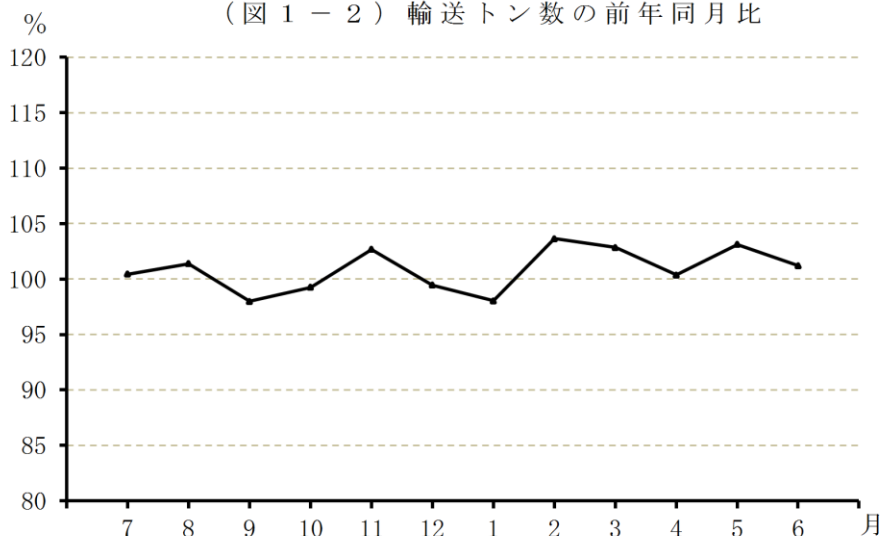
なお、平均稼働日数は25.2日で、前月と比べ2.9日増加し、前年同月との比較では、0.0日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、212,467トンで、前月と比べ約5千トン減少したため、前月比97.9%となり、前年同月との比較では、約3千トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

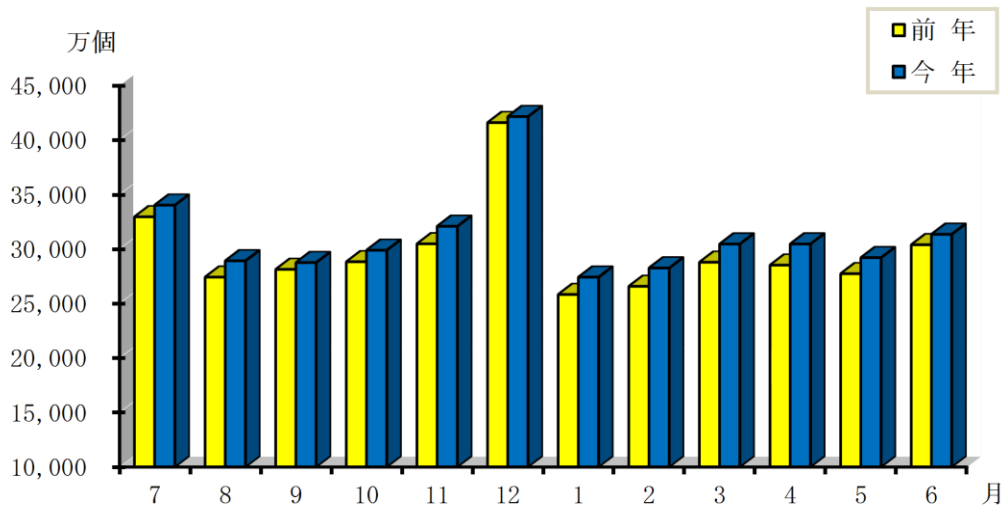


(2) 宅配便の概況

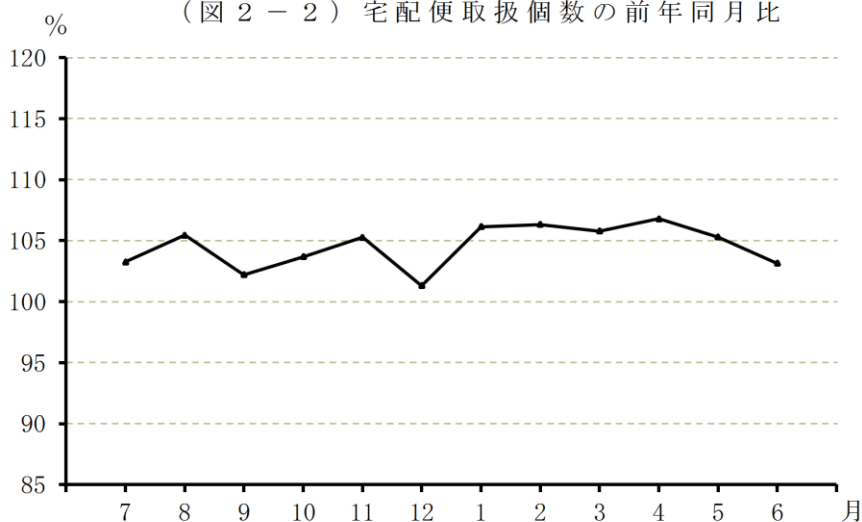
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 313,516 千個で、前月と比べ 約 21,448 千個増加したため、前月比 107.3% (季節調整済み 101.1%) となり、前年同月との比較では、約 9,561 千個増加したため、前年同月比 103.1%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月との比較で見ると、全ての品目で輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「食料工業品」であった。地域別では、「関東地方」、「北陸信越」、「中部地方」、「近畿地方」、「中国」の各地方で貨物増となっている。

前年同月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が減少したと回答する事業者があった。品目ごとでは、「機械」、「繊維工業品」について、工場・生産地からの貨物減が主な減少要因となっている。一方、「食料工業品」では、倉庫から出る貨物増が主な増加要因となっており、地域別では、「関東」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減 著			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	13			4
	金属製品		6	14	1	関東、中部地方、近畿	4
	機械	1	7	12		機械部品 東京、神奈川、愛知、大阪	4
	化学工業品		10	10	2	合成樹脂 関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品		7	15		神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国	4
	食料工業品	1	10	9		飲料、その他の食料工業品 関東地方、北陸信越、近畿、中国	4, 7
	日用品	1	9	12		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方	4
	その他	2	7	11	1	宅配便	8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	12	2	1	
	金属製品		2	17	2		
	機械	1	2	12	5		4
	化学工業品		4	14	3	1	
	繊維工業品		3	14	5		4
	食料工業品	1	5	12	2	その他の食料工業品 関東	7
	日用品		2	16	4		
	その他	1	3	11	6	その他 全国	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者807社/調査対象事業者数1,009社)の輸送量は、前月比 108.9%、前年同月比 97.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.2 %	96.5 %	97.8 %	99.0 %	92.3 %	100.4 %	94.5 %	101.5 %	96.3 %	98.8 %	89.7 %	
前 月 比	108.9 %	120.2 %	106.7 %	107.8 %	103.0 %	110.7 %	107.7 %	107.9 %	101.7 %	104.0 %	91.0 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 120.2%、対前年同月比 96.5%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「金属製品」及び「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「水産品」が、倉庫への入出庫増により「穀物」が、季節的需要増により「その他の農産物」が、また、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」が、また、「木材」、「揮発油」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比106.7%、対前年同月比97.8%であった。品目別では、輸出入の貨物増、工場・生産地からの貨物増及び季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減及び景気の影響による貨物減により「その他の石油製品」が、また、「穀物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比107.8%、対前年同月比99.0%であった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比103.0%、対前年同月比92.3%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」が、また、「鉄鋼」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比110.7%、対前年同月比100.4%であった。品目別では、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 107.7%、対前年同月比 94.5%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比107.9%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「食料工業品」が、また、「金属製品」、「動植物性飼・肥料」が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比101.7%、対前年同月比96.3%であった。品目別では、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減により「野菜・果物」が、また、「金属製品」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比104.0%、対前年同月比98.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「その他の窯業品」が、天候の影響により「食料工業品」が、また、「金属製品」、「繊維工業品」及び「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「野菜・果物」、「木材」が、季節的需要減により「野菜・果物」が、また、「水産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比91.0%、対前年同月比89.7%であった。品目別では、季節的需要増により「取り合わせ品」が、また、「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			越							計
1. 穀物	増		4						2		1		7
	減		1	2		1							4
2. 野菜・果物	増			6					1	3	4		14
	減			2	1					5	8	1	17
3. その他の農産品	増		2	1				1			1		5
	減										1	1	2
4. 畜産品	増												
	減		1								1		2
5. 水産品	増		3	2					1				6
	減			1						1	2	1	5
6. 木材	増		1			1			2		2	2	8
	減		3	1		1			1		4		10
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増		1										1
	減		1	1									2
9. 金属鉱物	増												
	減												
10. 砂利・砂・石材	増		15	2		1	1		2	1	6		28
	減		2				1		2	3	5	1	14
11. 工業用非金属鉱物	増		4	1									5
	減		2	1						1	1		5
12. 鉄鋼	増			1		4			1	3	1	1	11
	減			2						1	2	1	6
13. 非鉄金属	増										1		1
	減								1		1		2
14. 金属製品	増		2			1		1	3		3		10
	減					2	1	1	1	2			7
15. 機械	増			2	1		1	1	2	2	5	1	15
	減				1	2			3	1	5		12
16. セメント	増		6	2							4		12
	減			1					1	1	1		4
17. その他の窯業品	増		1	1		2	1		1	1	4		11
	減							1	1	1	1	1	5

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	海	道	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
18.	揮 発 油	増										1		1
		減	2			1					1			
19.	そ の 他 の 石 油 製 品	増								2				2
		減	5	4		1				2	1	1		14
20.	コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増												
		減												
21.	化 学 薬 品	増				1				1				2
		減		1						2		1		4
22.	化 学 肥 料	増												
		減		1										1
23.	そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	1			1				1		1		4
		減	1		1			1	1					4
24.	紙 ・ パ ル プ	増	1	1		1	1	1	1	1	1			7
		減	1			1					2		1	5
25.	織 維 工 業 品	増										2		2
		減		1							1			2
26.	食 料 工 業 品	増	1	4	1	4		3	8	3	7	1		32
		減	3	1		1		1		4	1			11
27.	日 用 品	増		1		1			2	2		1		7
		減		2					1	1	4	1	2	11
28.	そ の 他 の 製 造 工 業 品	増				1	2			1				4
		減			1					1			1	3
29.	金 属 く ず	増										1		1
		減											1	1
30.	そ の 他 の く ず も の	増									1			1
		減									1			1
31.	動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	6	2						2	1	1		12
		減		2							1	1		4
32.	廃 棄 物	増		2						1		5		8
		減		2							1	1		4
33.	輸 送 用 容 器	増		1								1		2
		減												
34.	取 り 合 せ 品	増	1									2	3	6
		減		1								2		3
35.	そ の 他	増	1	3			1	7	9			9		30
		減		2	1	1		1	2			4		11